

小学教諭養成で地域貢献

八学大、来年度から新課程

八戸学院大学は2026年度、人間健康科学科（現在の人間健康学科から名称変更）に小学校教諭2種免許状が取得できる教員養成課程を新設する。26日、同大が発表した。同学科は24年度から玉川大学（東京）通信教育課程の単位取得で同免許が取得できるプログラムを開設しているが、来年度からは同学科が既に設置している中学校教員養成課程と同時履修によって必要単位が取得できる。

県内で小学校教員養成課程を設置する大学は3校目で、県南では初めて。八戸市をはじめ県内で深刻な小学校の教員不足、児童の肥満傾向、平均寿命の短さといった本県特有の地域課題に対応する狙いがある。

八学大人間健康学科では現在、保健体育の中学校教諭1種と高校教諭1種、養護教諭1種の免許状が取得できる。1種免許は大卒相当、2種は短大卒相当で取得可能で、指導できる範囲に違いはないとされる。従来、小学校教員養成課程は教員養成を主目的とした学科でのみ開設が認められていたが、同大は教員不足などの地域課題に対応するため、中学の保健体育や英語などの教職課程がある学科に小学校課程を開設できる特例制度を活用。今月22日付で文部科学省から課程の認定を受けた。

小学校免許取得を目指す学生は中学校免許取得に必要な単位に加え、小学校各教科の指導法に関する科目6単位が必要。高校免許も同時履修の場合、さらに教育実習3単位が必要となる。小学校教員養成課程は26年度新入生からが対象で他学年が履修可能かは文科省などに確認中という。

八学大の小林眞学長は記者会見で「児童期からの健康水準向上、地域の健康課題解決の一助になれば地域の教育の質向上と子どもたちの健やかな成長を支えるリーダーを育成したい」と強調。会見に同席した八戸市教育委員会の齋藤信哉教育長は取り組みを歓迎し、教育実習先の小学校の紹介などで協力する意向を示した。

（千葉真由美）